

# 目次

口 絵  
はしがき  
凡 例

## 序 章 木曾の上松 …… 1

## 第 章 古代の上松 …… 9

### 第一節 遠い昔を探る …… 11

一 考古学少年たち …… 11

二 土の中に埋もれてある歴史 …… 14

三 各時代のように …… 16

四 わたしたちの血の中に …… 23

五 身近にある遺跡 …… 24

(一) 木曾川沿いの遺跡 その1 …… 30

(二) 西の遺跡 …… 30

(三) 東の遺跡 …… 31

(四) 川奥と高原の遺跡 …… 36

(五) 木曾川沿いの遺跡 その2 …… 37

——採集 狩猟の時代—— …… 39

一 遊動生活の人々(旧石器時代) …… 39

二 家をつくり定住をはじめた人々(縄文時代) …… 40

(一) 長野県最古のムラ(諏訪神社附近遺跡) …… 40

(二) 木曾中部の拠点集落(吉野遺跡群) …… 41

(三) サケ マスをとって(最中遺跡) …… 46

(四) 家の移り変わり …… 47

(五) 縄文人あれこれ …… 50

(六) 縄文人のくらし …… 52

(七) 石器 土器のひろがり …… 56

(八) 木曾 上松を代表する吉野式土器 …… 61

### 第三節 厳しい自然を拓いて生活した人々

——農業をはじめた時代—— …… 63

一 木曾川を上がってきた人々(弥生時代) …… 63

(一) 新しい土地を求めて(中期前半) …… 63

(二) 木曾で情報を交換をする(中期後半) …… 64

(三) 鳥居峠を越えての移住(後期) …… 64

二 古墳をつくれなかった木曾の人々(古墳時代) …… 68

(一) ヤマトイ国からヤマト国 …… 68

(二) 古墳のない木曾谷 …… 69

三 吉蘇路開通にかかわった人々(奈良時代) …… 70

(一) 木曾は美濃国恵那郡に所属 …… 70

(二) 木曾をさけた東山道 …… 71

(三) それでも吉蘇路を通ず……………73

(四) 諏訪神社附近遺跡……………74

四 美濃から逃れてきた人々(平安時代)……………75

(一) 律令制度のもとでの農民……………75

(二) 恵那郡……………77

(三) 絵上郷……………80

(四) 吉蘇村の中の吉野……………82

## 第二章 中世の上松……………87

第一節 非運の武將 木曾義仲……………89

一 木曾中太 弥中太 都で戦う……………89

二 上松での開発「吉野保」……………91

三 信濃の木曾 美濃の木曾……………98

四 世にある者 中原兼遠……………105

五 非運の武將木曾義仲……………107

六 木曾南部に残る義仲伝承……………115

第二節 美濃の国小木曾荘……………118

一 領家 その移譲……………118

二 小木曾荘地頭木曾真壁氏の謎……………124

第三節 信濃の戦国大名となった後木曾氏……………130

一 木曾藤原家系の台頭……………130

二 木曾氏の木曾谷支配……………132

三 すすむ天下統一 対峙 保身 滅亡の木曾氏……………135

四 木曾氏と上松……………143

第四節 十五 十六世紀の生活を垣間みる……………149

一 銭 貨……………149

二 くらしのいくつか……………153

第五節 厚い信仰心が残した仏教遺産……………158

一 船伏山観音堂本尊と胎内願文……………158

二 照谷山阿弥陀堂(東野)の本尊……………161

(一) 場 所……………161

(二) 由来 書……………162

(三) 俳句掲額……………162

(四) 照谷山阿弥陀堂由来……………163

(五) 古文 献……………164

(六) 本 尊……………164

(七) 本尊の重要性……………166

## 第三章 近世の上松……………171

第一節 徳川幕府の成立と木曾……………173

一 木曾支配の変遷……………173

(一) 秀吉から家康へ……………173

(二) 徳川家康と木曾衆……………175

(三) 尾張藩の木曾支配……………176

二 木曾代官山村氏……………176

(一) 代官山村氏の身分と格式……………176

(二) 山村氏歴代の代官と政治……………181

(三) 山村氏の家臣と諸役……………185

	(四)	山村氏の木曾支配	186
	(五)	山村家の財政	189
	(六)	山村代官屋敷	190
		<b>第二節 宿場と村</b>	192
	一	宿と村の構成	192
	(一)	宿と村の組織	192
	(二)	村 役 人	192
	(三)	村の戸数、人口	193
	二	村のくらし	196
	(一)	検地と年貢	196
	(二)	検地帳にみる田畑反別面積と地名 人名	198
	(三)	宿場と在郷	200
	(四)	荻原村の財政運営	206
	(五)	五人組の制度	210
	(六)	村人へのきまり	210
		<b>第三節 街道と宿場</b>	212
	一	中山道と木曾十一宿	212
	(一)	中山道の整備	212
	(二)	中仙道から中山道へ	215
	(三)	中山道の宿駅	215
	(四)	木曾十一宿と上松宿	215
	(五)	問屋場の機構	218
	二	伝馬制度と公用荷物の継ぎ送り	219
	(一)	伝馬の制度と駄賃	219
	(二)	寄せ人馬と助郷	223
		<b>三 諸大名の通行</b>	227
		<b>三 街道と旅</b>	235
	(一)	立場茶屋	235
	(二)	旅と関所手形	241
	(三)	街道の事件	245
	(四)	滑川橋と木曾の棧の銘文	246
	(五)	宿場の形態と設備	249
	(六)	御嶽街道	252
	(七)	上松は木曾一の景勝地	255
	(八)	臨川寺土産「木曾八景」版画	259
		<b>第四節 尾張藩の木曾山支配と暮らし</b>	263
	一	木曾山支配の変遷	263
	二	木年貢の制度	264
	三	尾張藩の林政改革	266
	(一)	尾張藩の木曾山直轄管理	266
	(二)	御 留 山	266
	(三)	御 巢 山	266
	(四)	御留山 御巢山新囲	267
	(五)	住民の利用できる山 明山と停止木	267
	四	上松材木役所	269
	(一)	上松材木役所	269
	(二)	上松材木役所の役人と組織(安政五年 一八五八)	270
	五	山の仕事	273
	(一)	山の見分け 目論み 小屋掛け	273
	(二)	杣組 杣頭	273

(三)	伐採	277
(四)	造材	278
(五)	運材	280
(六)	材木請負と搬出の苦勞	296
六	山と住民の暮らし	297
(一)	御免荷物	297
(二)	川並御法度の厳しい掟	299
(三)	草山 入会山	300
(四)	里山 切畑	302
七	諸産業	303
(一)	木曾の産物	303
(二)	巢鷹	305
(三)	木曾馬の飼育 毛付け馬と馬市	307
(四)	漆の植え付け	312
(五)	薬用人参の栽培	314
(六)	焰硝	317
(七)	酒造	317
八	新田開発と井堰	318
(一)	ネギヤ井堰の話	318
(二)	芦島上の平井堰の話	318
(三)	原畑井堰の話	319
(四)	芦島倉上新田の話	319
(五)	野口徳原氏新田の話	319
(六)	見婦、大戸捨吉氏の話	319
(七)	中沢大橋良太郎氏の話	320

(八)	原畑用水	321
九	暮らしの中で	322
(一)	神楽の押し込み	322
(二)	巢主の背き伐り	323
一〇	災害と事件	324
(一)	凶作と飢饉	324
(二)	お救い米 夫食米 拝借金	326
(三)	火災と水害	330
(四)	騒動 事件	333
(五)	訴訟事件	337
<b>第四章 近代の上松</b>		
339		
第一節 明治維新前後の上松		341
一 戊辰戦争と木曾		341
はじめに		341
(一) 江戸城無血開城へ		343
(二) そして明治の世の中へ		347
第二節 明治の創業と木曾		350
はじめに		350
一 明治初期の上松の人々の暮らし		351
(一) 『明治九年駒ヶ根村誌』から		351
(二) 「駒ヶ根村物産取調」から		356
(三) 木曾山の住民利用について		360
第三節 行政区分の移り変わり		362

一	名古屋藩から筑摩県、そして長野県	362
二	大区小区制の設置	363
三	村が合併 分村 再合併、そして町に	366
四	明治天皇巡幸 上松での半日	370
第四節 すべての人に教育を		
一	学制の頒布と教育の普及	377
	はじめに	377
(一)	寺子屋の時代	377
(二)	学制の頒布	377
(三)	上松学校の設立	380
(四)	小川学校の設立	381
(五)	荻原学校の設立	382
(六)	教育の内容	383
(七)	生徒数と就学状況	385
二 教育の変遷		
(一)	教育令の公布	386
(二)	小学校令の公布	389
(三)	教育勅語発布後の学校	390
(四)	天皇尊崇の教育	396
(五)	大正時代の学校	397
(六)	昭和前期の学校	399
三 戦時教育		
(一)	あらまし	401
(二)	上松国民学校	402
(三)	荻原国民学校	405

第五節 木曾山にかける村人の願い		
	はじめに	407
一 問題発生の前ぶれ		
(一)	山と共に生活していた木曾人	409
(二)	山から閉め出された木曾人	410
二 駒ヶ根村の初期山林問題		
(一)	木曾郡下の動向	413
(二)	駒ヶ根村の山林問題	414
(三)	民有地下戻運動の展開	419
(四)	下戻し運動のその後の展開	421
(五)	山に生きる人々の抵抗	422
三 駒ヶ根村の御料林事件		
(一)	官林から世伝御料林へ	425
(二)	境界調査立会問題	427
(三)	再び郡全体の運動へ	428
(四)	哀願運動と西小川区民が選んだ道	430
(五)	御下賜金下付と西小川区の除外	433
(六)	その後の西小川区問題	434
(七)	御下賜金下付と郡下の動向	438
(八)	大正期御料林返還訴訟の提議者・竹村英三郎	443
第六節 上松は「ひのきの里」		
一 山林局の官林時代		
(一)	官林の沿革	446
(二)	山林局木曾山林事務所の組織経費など	452
(三)	木曾谷三十二ヶ村への官材払下	453

(四) 官材払下の民願書……………	455
(五) 厳しい官林の規則……………	456
(六) 木曾谷初の培栽植付……………	460
(七) 苗畑の造成を各地で開始……………	461
(八) 諏訪社上地官林について……………	465
(九) 明治天皇御巡幸と山林局福島出張所……………	466
(十) 駒ヶ岳のコマクサなどの薬草採取願ひ……………	469
(十一) 五社神社昇格願書……………	471
(十二) 木曾式伐木運材図絵の原本が発見される……………	472
(十三) 木曾伐木運材図絵(石版画 リトグラフ) について……………	473
二 御料林時代……………	474
(一) 御料林の成り立ち……………	474
(二) 上松の森林鉄道……………	480
(三) 木曾材の収支と帝室及び御料林財政……………	491
(四) 明治二十年 三十年代における木曾谷の御料林、木曾 全域の近代測量の調査と完成……………	494
(五) 伊勢神宮遷宮御用材の伐出地小川御料林……………	498
三 林政統一……………	510
(一) 林政統一にいたるまでの過程と木曾の御料林……………	510
(二) 林政統一直前における西筑摩御料林対策委員会の旧木曾 御料林の解放運動……………	512
(三) 林政統一による長野営林局の移転……………	515
第七節 地域の特色を生かしての暮らし……………	522
一 明治初期の村のすがた……………	522
二 産業の特色……………	522

三 養蚕 製糸業の発展……………	526
四 木材工業への転換……………	531
五 戦前期産業の疲弊……………	533
六 大正期地場資本による製材企業……………	534
七 西筑摩郡町村連合産業共進会……………	535
第八節 新しい文化の動き……………	537
一 町に新しい文化をもたらした人たち……………	537
(一) アーネスト メイスン サトウ(一八四三〜一九二九) ……………	537
(二) 松島縫次郎の無教会家庭集会……………	538
(三) ウォルター ウェストン(一八六一〜一九四〇) ……………	542
(四) ヨハネス デ レーケ(一八四二〜一九一三) ……………	544
二 寝覚ノ床と木曾の棧を通った文人墨客……………	545
(一) 飯塚正重(一六二九〜一六七〇) ……………	545
(二) 松尾芭蕉(一六四四〜一六九四) ……………	546
(三) 虎斑和尚(一七六四〜一八二四) ……………	547
(四) 十返舎一九(一七六五〜一八三一) ……………	548
(五) 島崎藤村(一八七二〜一九四三) ……………	549
(六) 正岡子規(一八六七〜一九〇二) ……………	550
(七) 種田山頭火(一八八二〜一九四〇) ……………	551
(八) 東山魁夷(一九〇八〜一九九九) ……………	552
(九) 上松町を訪れた文人墨客一覧……………	553
第九節 戦時下の人々の生活……………	555
一 日清 日露戦争……………	555
(一) 戦争の概要……………	555

- (二) 戦争と国民生活……………557
- 二 第二次世界大戦……………558
  - (一) 満州事変から日中戦争へ……………558
  - (二) 太平洋戦争……………559
- 三 満州移民政策とその破局……………562
- 四 戦時体制の強化と住民の生活……………564
- 五 上松町にも中国人労働者が……………566
- 六 学徒勤労奉仕隊……………573
  - (一) 木曾中学校(昭和十九年)……………573
  - (二) 飯山中学校(『千曲の流れ』より)……………579
- 七 戦没慰霊者名簿……………593

## 第五章 現代の上松……………603

- 第一節 新しい地方自治……………605
  - 一 連合軍による占領……………605
  - 二 町政の民主化と展開……………605
    - (一) 日本国憲法と地方自治法……………605
    - (二) 戦後の地方選挙……………606
    - (三) 新しい教育行政……………608
    - (四) 自治体警察……………611
    - (五) 農地改革……………612
  - 三 上松町の大火とその復興……………613
    - (一) 火事の多い町上松……………613
    - (二) 昭和十四年の大火……………614

- (三) 昭和二十五年の大火災……………615
- (四) 火災に強い町を目指して……………621
- (五) その後……………626
- 四 戦後の復興産業の進展……………626
  - (一) 木工業……………626
  - (二) 企業誘致……………627
  - (三) 観光開発……………628
  - (四) 森林鉄道廃止……………638
  - (五) 上松運輸管林署の廃止……………641
- 五 春山(張山)地区境界問題の決着……………641
  - はじめに……………641
  - (一) 問題の契機と経過……………642
  - (二) 最終決着へ……………643
  - おわりに……………643

## 六 町の振興計画……………644

- (一) 国の政策 町の振興計画……………644
- (二) 山村振興事業……………644
- (三) 辺地対策事業……………644
- (四) 広域市町村圏事業……………645
- 第二節 未来に輝く人づくり……………646
  - 一 上松小学校の改築……………646
    - (一) 改築の趣旨……………646
    - (二) 改築の経過……………648
    - (三) 上松小学校校舎竣工記念文集(六〇四年生)から……………651
  - 二 上松中学校の改築……………652

(一)	自慢して誇れる中学校	652
(二)	改築の経過	654
(三)	新 校 舎	655
三	荻原小学校の閉校	656
(一)	統合が決まるまでの経過	656
(二)	統合に伴う検討委員会の設置	657
(三)	通学手段の決定まで	660
(四)	両校児童の交流	662
(五)	閉校までの一年間（児童の活躍）	663
(六)	一年間の思い出づくり	664
(七)	閉校記念式典	667
(八)	閉校記念碑の建立	667
(九)	校舎の取り壊し	668
第三節	木曾ねざめ学園 上松荘の設置	669
一	木曾ねざめ学園	669
(一)	木曾学園	669
(二)	木曾ねざめ学園の設立	669
(三)	木曾ねざめ学園の沿革	670
(四)	最近の概況	671
二	上 松 荘（知的障害者更生施設）	674
(一)	上松荘設置までの経緯と現況	674
(二)	上松荘の沿革	675
(三)	最近の概況	676
第四節	安心して暮らせる町づくり	678
一	道路、交通網の整備	678

## 終 章 二十一世紀 上松町はいばらの道を

(一)	上松バイパスの建設	678
(二)	木曾川右岸道路 まず上松に	681
二	水害と滑川砂防ダム	683
第五節	「緑林文化都市上松町」を目指して	687
一	二十一世紀につなげる町づくり	687
(一)	ウエイク アップ プラン	687
(二)	町制七〇周年記念	688
(三)	一〇年間で具現したものは	691
二	二十一世紀のスタート	692
(一)	第四次総合計画	692
一	町民は自立を選ぶ	711
二	「明治の大合併」	711
三	「昭和の大合併」	713
四	「平成の大合併」へ	713
五	一抜け二抜けの木曾市構想	714
六	上松町での動き	717
七	自立はいばらの道	719
付	木曾郡と上松町の町村合併に関わる事項	726

## 別 編

上松町を中心とする年々の事項	735
----------------	-----



上松町の文化財一覧表……………768

主要参考文献……………772

上松町の歴代要職者名簿……………773

上松町誌編纂委員会……………787

歴史編執筆分担……………788

指導助言者……………789

資料提供 協力……………789

協力者……………789

あとがき……………790

## 序章

# 木曾の上松